

全国災害復興支援士業連絡会 設立大会活動報告

開 催 日：令和3(2021)年5月15日(土)

開催場所：仙台弁護士会館(一部会場参加)

開催方法：YouTubeによるWEB配信

宮城県災害復興支援士業連絡会
会長 高橋 清秋

1. 設立目的趣旨

宮城県における地震等の大規模災害に対し、専門家職能団体及びその構成員が、専門的知識及び経験を有効かつ機能的に生かし、防災活動並びに災害復興及び被災地域・被災住民の復興支援活動を遂行することを目的としています。

2. 設立時加盟団体概要

宮城県災害復興支援士業連絡会は8団体で平成17年3月に設立

- ① 仙台弁護士会
- ② 宮城県司法書士会
- ③ 東北税理士会宮城県支部連合会
- ④ 宮城県土地家屋士会
- ⑤ (社)宮城県不動産鑑定士協会
- ⑥ (社)宮城県建築士事務所協会
- ⑦ (社)宮城県建築士会
- ⑧ 宮城県行政書士会

現在は退会と新規加入があり13団体で活動

3. 参加団体（令和3年4月現在）

- 1、仙台弁護士会
- 2、宮城県司法書士会
- 3、宮城県社会保険労務士会
- 4、宮城県行政書士会
- 5、日本公認会計士協会宮城県会
- 6、東北税理士会宮城県支部連合会
- 7、(一社)宮城県不動産鑑定士協会
- 8、(一社)建築研究振興協会東北分室
- 9、(一社)宮城県建築士事務所協会
- 10、宮城県土地家屋調査士会
- 11、(公社)宮城県公共嘱託登記土地家屋調査士協会
- 12、(公社)日本建築家協会東北支部宮城地域会
- 13、(公社)日本技術士会東北本部

4-1. 設立後の活動

平成18年5月	第1回シンポジウム 震災とマンションをめぐる問題を中心に
平成19年5月	宮城県災害復興支援士業連絡会災害時対策マニュアル策定
平成20年6月	第2回シンポジウム 自宅倒壊から生じる諸問題への対応
平成20年6月	岩手宮城内陸地震に対応して、現地無償相談会を開催
平成20年12月	宮城県との間で協定書締結
平成22年6月	岩手宮城内陸地震の検証のため栗原市社会福祉協議会と会合
平成22年9月	宮城県主催の防災訓練参加
平成22年10月	第3回シンポジウム岩手宮城内陸地震振り返る災害時の専門家
平成23年3月	東日本大震災(活動記録それぞれ団体が活動)
平成23年3月	災害対策本部を設立
平成23年3月	山元町の避難所4カ所にて無料相談開催
平成23年3月	仙台商工会議所の要請により相談会実施
平成23年4月	仙台市・名取市の避難所12カ所にて無料相談会実施
平成23年5月	阪神淡路まちづくり支援機構と意見交換・東日本大震災の取組み
平成23年5月	会内の学習会社会保険労務士会・土地家屋調査士会
平成23年5月	大阪府ADRセンターと意見交換
平成23年5月	会内の学習会建築士事務所協会・司法書士会
平成23年6月	会内の学習会行政書士会・東北税理士会宮城県支部連合会

4-2. 設立後の活動

平成23年6月	会内の学習会建築士会・宮城県不動産鑑定士協会
平成23年6月	会内の学習会仙台弁護士会
平成23年7月	震災対応合同セミナー
平成23年8月	東京災害復興まちづくり・阪神淡路まちづくり支援機構意見交換
平成23年8月	仙台市(住環境整備課)11月(仙台市復興室)意見交換
平成23年11月	会内の学習会不動産鑑定士協会
平成23年12月	日本弁護士連合会と意見交換会
平成24年4月	「まちづくりQ&A三重奏団による気仙沼復興コンサート
平成24年10月	フーゴ・ウ`ォルフ
平成24年11月	兵庫県震災復興センター主催亘理町仮設住宅童謡サロンを後援
平成24年12月	みやぎ連携復興センターと意見交換
平成25年4月	建築家協会東北支部宮城地域会主催復興シンポジウム後援
平成25年7月	会内の学習会宮城県不動産鑑定士協会
平成25年9月	石巻市北上地区にて無料相談会
平成26年2月	公開学習会「よりよいマンションをめざして大震災からの教訓」 マンション管理士会、建築士事務所協会、建築家協会、東北工大田中名誉教授
平成26年5月	建築家協会東北支部宮城地域会主催復興シンポジウム後援
平成26年8月	仙台市と「大規模災害時相談業務の応援に関する協定」締結
平成26年11月	災害復興まちづくり支援機構(東京都)主催のシンポジウム

4-3. 設立後の活動

平成27年1月	阪神淡路まちづくり支援機構主催災害対応支援士業連絡会 全国交流シンポジウムに参画
平成28年2月	建築家協会東北支部宮城地域会主催復興シンポジウム後援
平成29年2月	シンポジウム「在宅被災者から見えてきた復興の課題」を開催
平成29年7月	建築家協会東北支部宮城地域会主催復興シンポジウム後援
平成29年7月	災害復興まちづくり支援機構(東京都)主催のシンポジウム協賛
平成30年1月	会内の学習会宮城県司法書士会
平成30年2月	徳島大学・井若和久博士と事前復興について意見交換
平成30年6月	女川町長・須田善明氏による地域社会のあり方講演会
平成30年6月	会内の学習会日本公認会計士協会東北会宮城県会
平成30年7月	災害復興まちづくり支援機構(東京都)主催のシンポジウム 首都直下地震被災者の生活はどうなる?どうするを協賛
平成30年9月	建築家協会東北支部宮城地域会主催復興シンポジウム後援
令和元年7月	建築家協会東北支部宮城地域会主催復興シンポジウム後援
令和元年10月	岩手県の沿岸被災地を視察、遠野市長と意見交換
令和元年12月	山崎栄一関西大学教授、津久井進日本弁護士連合会災害復興 支援委員会委員長を招き災害法制シンポジウムを開催
令和元年12月	台風19号にて甚大な被害を被った丸森町にて現地相談会継続中
令和元年7月	丸森町に「台風19号被害における復旧復興に向けた提言書提出

5. 東日本大震災後宮城県建築士事務所協会活動

- ① 災害復興支援士業連絡会との情報交換
- ② 宅地建物の応急危険度判定
- ③ 公共施設被災度区分判定・再建支援
- ④ 応急復旧戸建て住宅再建支援相談
- ⑤ 応急復旧民間ビル、マンション再建支援相談
- ⑥ 罹災調査行政支援
- ⑦ 戸建て住宅耐震診断と耐震改修事業支援
- ⑧ 事務所、マンション等耐震診断と耐震改修事業支援

6. 被災住宅自力再建の支援活動の原点

地震等の大規模災害に対し、生活再建は被災住民の復興なくして進まないと言うことはこれまでの災害で経験していました。2004年10月中越地震に応急危険度判定の責任者として30人の会員を連れて長岡市に3日間行きました。被災1か月後東北工業大の教授と建築士事務所協会、建築士会会員で応急危険度判定後の様子見に町内会長の案内で被災住宅の状況確認を行いました。その時被災程度が軽い住宅でも心配で避難所から帰れないでいる多くの住民がいることが分かりました。



7. 活動写真 2004年11月 長岡市の穴水
地区町内会長宅で相談支援住家の確認



8. 2004. 11月 被災住家の状況劣化も
被災を大きくしていた



9. 2004. 11月 町内の住民 と被災の状況を聞く

10. 被災建物再建の支援活動

2004年の長岡市への支援から帰って、早速応急危険度判定後の支援の方法が必要だと宮城県と関係団体と、平均37年に宮城沖でM7.5程度の地震に備えた組織と住宅再建額を誰が再建調査を担当しても差の無いようマニュアル化しました。宮城県内では2003年北部連続地震に始まり岩手宮城内陸地震等6～7年に一度震度6弱以上の地震が発生しています。

応急危険度判定は余震によって2次災害をなくすために国土交通省がボランティア組織化したものです。

被災住宅再建は長期にわたるので全てボランティアでは協力者が集まらんと交通費等の支給を県と協議しているうちに2011. 3. 11東日本大震災が発生し、マニュアル作っていたことは無駄では無かった大変助かりました。



11. 2011. 3.11 児童先生が84人逝去の
石巻市立大川小学校



12. 2011. 3. 30 2階建て校舎の屋根まで
瓦礫 石巻市立大川小学校



13. 2011. 3. 30 校庭全体に瓦礫
石巻市立大川中学校



14. 2011. 3. 30 校舎体育館まで瓦礫
石巻市立大川中学校



15. 2011. 3. 15 地盤の崩壊
仙台市旭が丘団地



16. 2011. 3. 11 仙台市七北川
住宅が川の中央に流れ着いている



17. 2011. 3. 14 仙台市泉区団地
住宅周りのがけ地に面した道路陥没



18. 2011. 3. 11 仙台市青葉区上杉
地震後午後4時半が雪ちらつく中歩いて
帰宅を急ぐ市民



19. 2011. 3. 14 仙台市青葉区五橋兵
庫県から支援に来ていただいた消防車、
救急車100台余り津波の沿岸部に向かう



20. 2011.3. 15 仙台市青葉区役所
応急危険度判定調査箇所説明状況



21. 2011. 3. 15 応急危険度判定
仙台市青葉区旭ヶ丘住宅地盤崩壊



22. 2011. 3. 15 応急危険度判定
住宅のアンカーボルトと土台の剥脱



23. 2011. 3. 15 応急危険度判定
地盤の沈下ずれによる大きな被害



24. 2011. 3. 15 応急危険度判定
地盤の沈下ずれによる大きな被害



25. 2011. 3. 15 応急危険度判定
地盤の沈下ずれによる道路と段差



26. 2011. 3. 15 応急危険度判定
地盤の擁壁崩壊沈下ずれによる



27. 2011. 3. 15 応急危険度判定
地盤の沈下ずれによる道路と段差

地震被害建築相談調査報告書

調査実施日

令和 3 年 2 月 19 日

宮城県地域型復興住宅推進協議会 調査担当事務所

住所 仙台市泉区長命ヶ丘3-31-17

会社名(有)高橋建築設計事務所

氏名 一級建築士 高橋 清秋

検査方法	目視（スケール、下げ振り等）	地震被害	震度6弱
物件名	ケアハウスMIRAI山元	建物用途	ケアハウス
所在	山元町高瀬合戦原		
相談者	山元町福祉課様		
竣工	昭和 年 月 日頃 平成 年 月 日頃	備考	山元町福祉課からの依頼 罹災判定で見ると大規模半壊程度と考えます
工事概要	構造・階段 木造 基礎 RC 地下一階、地上 1階、PH一階 面 積 建築面積 m ² 延床面積 m ² 付帯工事		

2021.2.19ケアハウス被災状況写真

調査内容	外部不具合	・構造柱腐朽劣化と地震による大きな損壊、崩落の危険性あり区域を立ち入り禁止処置要する ・エントランス2箇所開閉不能大きな損傷 ・サッシ損傷多数、ガラス一部破損、鍵も閉まらない状態 ・その他外壁南面タイル張り部分損傷、一部剥落危険な状態 ・その他蓄電池制御盤カバー損傷外れている ・詳細調査を要するが南面基礎の沈下可能性がある
	内部不具合	・ホール天井化粧ボードに落下の危険損傷 ・大ホール内壁化粧板釘が弾けはがれている、塗り壁部分も剥落損傷 ・クロス貼り仕上げの損傷 ・浴室タイル亀裂剥落、ガラス散乱損傷 ・天井埋め込みエアコンカバー外れ本体も至急点検を要する ・トイレのロータンク損傷陶器散乱危険な状態 ・その他内部建具等外れて使用可能か調査が必要
所見		・建物全体の損傷が見られます、外壁、2箇所の出入り口、外部サッシの損傷を見ると構造体の損傷の可能性があり詳細調査(天井裏、床下、レベル測定等) 大きな損傷の原因の一つに、南面の構造耐力の不足による重心と剛心のずれによる偏心率の大きいことが考えられます。詳細調査には、耐震診断を同時に行い改修計画することをお勧めします。改修費用については構造補強、エントランスサッシ、自動ドア、外部サッシ、ガラスブロックの取り換え設備機器の交換、内部仕上げの改修等、断熱材が入っていないので国の省エネ基準を満たす、基礎補強、解体費用等も含めて新築額と同程度考えます。

28. 201910月台風19号被災住宅再建支援

宮城県における地震等の大規模災害に対し、生活再建は今まで経験していました。しかし台風被害は南の地方のように今までは大きな被害が少なかったために災害復興士業支援連絡会の活動はありませんでした。

台風19号の支援は国土交通省の支援のもと、建築士事務所協会、建築士会会員で研修会を開催して地震のマニュアルを使用して相談対応を始めました。しかし初めは町のホールを利用して待ちの相談会を行っていましたが車が流され、高齢者で仙台弁護士会、ボランティア団体と協力のもと被災地へ入って、行政区長等の案内で相談対応を始めたら、多くの相談者が居て、半壊以上の方々にも在宅避難をされ多くの被災者がいることが分かり1年半相談会がコロナの中、中断しながら継続中です。



29. 丸森町上滝地区集会所相談会



30. 白石市大鷹沢公民館相談会



31. 丸森町耕野地区相談会



32. 丸森町南郷地区代表者懇談会



33. 丸森町薄平地区被災住宅



34. 丸森町五福谷地区被災住宅



35. 丸森町竹谷地区被災状況



36. 丸森町上滝地区住宅裏山状況



37. 丸森町五福谷地区作業場被災

台風翌日角田市田園水没状況

災害がないことを願いながらも
『備えあれば憂いなし』

ご清聴ありがとうございました